

新開寶貴言

2007年(平成19年)4月2日 月曜日

地震で倒壊したブロック塀などを
片づけるボランティア(3月30日、
石川県輪島市門前町白野尾で)



能登半島地震では、強い揺れでブロック塀の倒壊が相次ぎ、石川県志賀町では倒れたブロック塀で男性が足を骨折した。倒壊した塀は鉄筋が老朽化したり、元々全く入っていなかつたとみられるものもあった。ブロック塀の危険性は1978年6月の宮城県沖地震で指摘されていたが、対策の遅れが被害を大きくした。日本海から強風が吹きつける志賀町笛波地区。あちらこちらに崩壊したブロック塀の残骸が山積みになっていた。

能登地震
ブロツク壊倒各所で
鉄筋なしか老朽化
「宮城沖」教訓生きず

この地区では多くの民家でロック壠を使用しているが、震度6弱に見舞われた直後、3～4軒に1軒程度の割合で次々に崩れた。けがをした男性(74)は、勝手口から自宅に入ろうとして大きな横揺れを感じ、立てすくんだ。その瞬間、高能登地方では、カヤなど

このほか、能登町でもロック壠の倒壊で2人が軽傷を負ったことが確認されている。

たつたら命はなかった」。壠を建てたのは約30年前。地震の衝撃で折れた鉄筋は、すでにさびていた。

さ約30cmのブロック壙が頭上へ崩れ落ちた。下敷きは免れたが、壙に立てかけていた板が倒れ、左足を挟まれて骨折した。

新潟県長岡市は一日、中越地震の発生以来、旧山古志村（長岡市）の5集落で41世帯416人（発生時）に発令していた避難指示を約2年5ヶ月ぶりに解除した。これで、最大約8万人に発令された避難指示・勧告はすべて解除された。

90世帯2167人(同)に
集落の旧山古志村では全く避難指示が発令され、05年7月から順次解除されたが、県道の復旧の遅れなどから5集落は解除されなかつた。ただ、土砂崩れダメで13世帯が水没するなどして木籠と、檜木では宅地が完成せず、他の3集落も電気や水道などが復旧していない。

いため、1日で帰宅できなかつた。住民はいなかつた。木籠集落では約60000平方㍍の山林を切り開かれ、新しい宅地を造成中で、完成は7月の予定だ。自宅を失った松井治さん(68)によれば、「一日、現地に駆け付けた新しい地にムラを作の印に」と、道路沿いに「がんばります!出発!」などと

書いたのぼり旗を立てた。長岡市山古志支所での開かれた式典には仮設住宅の住民ら約200人が集まつた。能登半島地震の被災者に配慮し、もじつきや万歳三唱は中止したが、森民夫市長は「山古志の住民が頑張ることで、能登の被災者の力になる」と激励した。

2年5か月ぶりライフライン未復旧

中越地震避難指示を解除

かんぱります

で作った「間垣」と呼ばれる
塀で強風に備えてきた。
しかし、手入れに手間がかかるため、笹波地区でもかかる
なり前からブロック塀への
切り替えが進んだという。
宮城県沖地震では、死者
28人のうち18人（県集計）
が、ブロックや石の塀、記
念碑などの倒壊によって死
亡した。見た目では強度を
判断できないため全国的に
対策が進められ、静岡県は
東海地震に備え、ブロック
塀撤去や生け垣への転換に
市町を通じて補助する事業
を実施。所有者に改修を
指導する県条例も設けた。
これに対し石川県は注意
喚起をしてきた」とする
ものの、「地震への危機意
識の問題もあり、（ブロック
塀の安全対策への）関心
は高くなかった。課題を残
した」（建築住宅課）と
対策の遅れを認める。

土岐憲二・立命館大教授
(地震工学)は「上下に重
ねただけのブロック塀は、
横からの力に弱い。鉄筋が
備わり、きちんと機能して
いるかを改めて点検すべき
だ」と指摘している。